

土から復興を考える



# 「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯館の方言です。



7月キュウリ。10月レタス。  
11月は、ほうれん草、  
小松菜を収穫しました。

飯館村長泥地区では、

除染した土の活用に向けた実証事業の一環として  
今年から野菜も栽培しています。

土づくりから関わっていただいている、  
地元の庄司喜一さんにお話を伺いました。

「新しい土や堆肥を使うことは、  
実証事業以外にはありませんでしたから、  
そこは初めてのことと苦労しています。

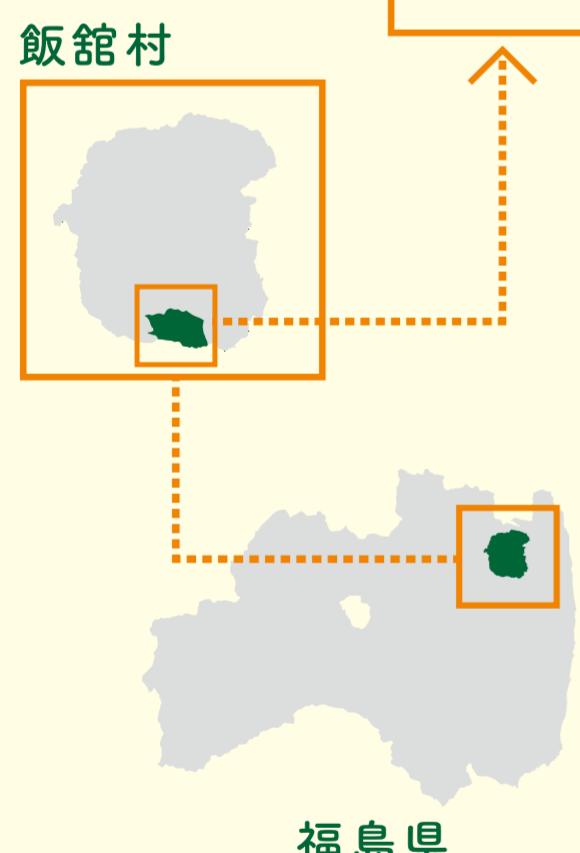
ただ、いろいろ試してみて、私たち自身が  
経験を積むことも実証事業だと考えています」

「放射能濃度を測った結果から、  
作物に影響がないことを私たちは知っていますが、  
他のみなさんほどのように

お考えになるのは気になります」

環境省では再生利用実証事業を通して  
農作物中に含まれる放射能濃度を測定しています。  
引き続き、科学的なデータを取得するとともに、  
情報発信に努めてまいります。

※これまで測定した野菜の放射性セシウム濃度は  
0.1～2.3 Bq/kgでした。（一般食品の基準は、100 Bq/kg。  
なお、これらの野菜は、測定後に廃棄しています。  
また空間線量率、水、大気の測定のみならず、  
外部被ばく線量も継続的に把握し、  
実証事業に関わる人々の安全に常に配慮しています。）



※手に持っている野菜は、  
実証事業で栽培された  
ほうれん草、小松菜です。



庄司正彦さん

鳴原誠一さん

庄司喜一さん

実証事業の  
詳細はこち  
ら



福島、その先の環境へ。

風評被害と向き合い、震災を風化させることなく、福島のよりよい環境づくりに貢献すること。そのために環境省は、「飯館村での実証事業」、「いっしょに考える『福島、その先の環境へ』チャレンジアワード」など、福島の「その先」に向けた取組を行っています。